

# なにわ たいむず

No.107

## contents

- 01 news / 管理者うるしまのヨモヤマバナシ
- 02 お母さんの日々あれこれ
- 03 プラマエダノアトリエナニワ
- 04 Case Book
- 06 ジムインこいけのなんでも日記  
サポータークラブ
- 07 スタッフ紹介

## 「コロナ禍でも日中活動はできる！」

2020年2月頃からコロナ禍が始まり、利用者さんの日中活動においても「行動制限」「自粛」といったことを考えざるを得ない場面がたくさんありました。ただ、利用者さんの平均年齢は40代後半、自粛明けにまた運動を頑張るということでは身体機能の衰えをカバーできないのではないかと考えました。今年度、ライフサポートならわ通所支援1係のスローガンを「コロナ禍でも日中活動はできる！」として、敷地内での歩行活動(通称：サーキット)を始めました。

午前1時間程度歩行活動を行っています。夏に入ってから、環境省が発表している「暑さ指数」を基準に実施の判断をしています。また、首に巻く保冷剤を着けてもらったり、大型扇風機やミストシャワーを歩行コース内に設置したりして、暑さ対策を行っています。

ちよつと見た印象では、遊園地の乗り物待ちに並ぶコースやん！と突っ込みを入れたくなりますが、考え方を換えればチーンだけで、立派な歩行活動が成り立つのです。欲をいえば、地面が芝生だったり土だったりしたら、環境としてはよりいいんだろうなとも思いますが、今年度はここからスタートということで踏み切りました！

長く歩くのは苦手なベンチで休憩する方、また笑顔で小走りする方と利用者さんの反応はいろいろですが、それぞれの方の体調に配慮しながら続けていけたらと思います！(藤井)



## 管理者の暮らし

## スタッフの自己研鑽の機会を大切に

自分がこのヨモヤマバヤシを担当することになってから(2020年5月から)コロナの話題ばかりでワンパターンだなと思いつつも、話題には事欠きません。今回執筆時も第7波の真ただ中であり、前例にないほどの急激な感染者数の増加に現場では不安と緊張感が高まっています。

7月上旬に漆嶋家では末っ子の小学一年生の子どもがコロナ陽性となり、家族全員自宅待機となりました。末っ子は40℃の発熱があり、一時は心配しましたが、すぐに熱も治まりました。末っ子は小学一年のわりに聞き分けがよい方のように、部屋に一人でいるように伝えると本人なりに我慢しながらも、10日間部屋で過ごし、トイレやお風呂で部屋から出てきたときにきょうだいに手を振る姿がいらしく、親として切なくなりましたが、おかげで他の家族には感染せずに済みました。家庭内感染の際は、これまでに施設で実施してきた感染対策の知識が大いに役立ち、苦労は損をするものではないと実感しました。大変な中、このなにかにむすぶをお読みいただいているすべての皆様の日々の苦労が労われることを切に願います。

7月17日に公認心理師国家試験が実施されました。今年は実務経験者の経過措置の最終年度となります。法人から積極的に受験を促すため、合格者には祝金等を支給するなどの援助を決めたところ、12名のスタッフが今回の受験に至りました。結果が気になるのですが、働きながら国家試験の勉強を続けることにチャレンジをした勇氣ある12名のスタッフを誇らしく思います。皆さん、本当にお疲れ様でした！

この度『なにわの里実践事例集2021〜2022』が無事発行となりました。2012年度に第一号が発行されてから今回で7冊目、合計103事例となります。この事例集はなにわの里の支援の歩みの記録であり、我々の誇りでもあります。ぜひ皆さんご一読いただき、同封のアンケートにてご感想をお寄せください。一人ひとりのご意見が執筆者のモチベーションとなり、新たな法人の歴史の一步となります。それぞれの形で楽しんでいただけると光栄です。



## 風とシーツ

二通りの冷感シーツ、必須です！

寝る前に、クーラーでしっかり冷やすと、とても気持ちよく過ごせます。扇風機でも冷えるんです！

寝る時の対策は、そんな感じでしょうか…

あとは、対角線上の窓を開けて、とにかく風通しをよくしています。…動物ってすごくて！一番風の当たるところを察知して、寝そべってるんですよ～犬さんが(笑)

なので、そこが一番涼しいという目印にしています。

あと、リビングには壁付けの扇風機が4台ほど…

これが、さらに風の流れを作ってくれます！

～ちなみに、お子さんの服装は??～

パンツとランニングシャツです(笑)

by カズママ

### 担当者コメント欄

今年は6月から、急な暑さが始まりましたね(汗) そんな中だったので、今回はこのテーマでインタビューをさせていただきました。自然の力や食べ物など、上手に活用されながら過ごしているのだなと感じ、そんな一工夫を参考しながら、暑さを乗り切っていきななと思います！

(大西(里)・林(富))

## 今回のテーマ

## 暑い夏を乗り切る

♡ 秘策 ♡



お母さんが日々感じていることを  
ちよつとだけ垣間見るコーナーです

## 私の夏の暑さを乗り切る秘訣

気温の上がるお昼間は出歩かずに、太陽が沈んでから買い物へ…

暑い日の料理は極力頑張らずに、冷凍食品と缶詰に頼ります。

オーマイのミートソース、トマトソースの Pasta はフオーク 1 つで食べられて洗い物もなく楽ちん！

缶詰はオイルサーディン♪

素麺にかけても相性ばっちりですが、食パン8枚切りをトーストしてバターを塗り、サーディンを乗せてレモンをかけたら最高の一品に早変わり☆

セブンイレブンのエビチリもおすすめです。

最近は昔に比べて安くて楽ちんで美味しいものばかりで助かっています♪

お買い物の後はスポーツドリンク、リポビタンD、梅ジュースを用意して、そしてやっぱりクーラーのお部屋で休憩です。水分補給とクーラーが一番大事。

去年に熱中症になって学びました(;^\_^

頑張りすぎないで楽をするって楽しいです(^\_^♪

by 楽ちんママ

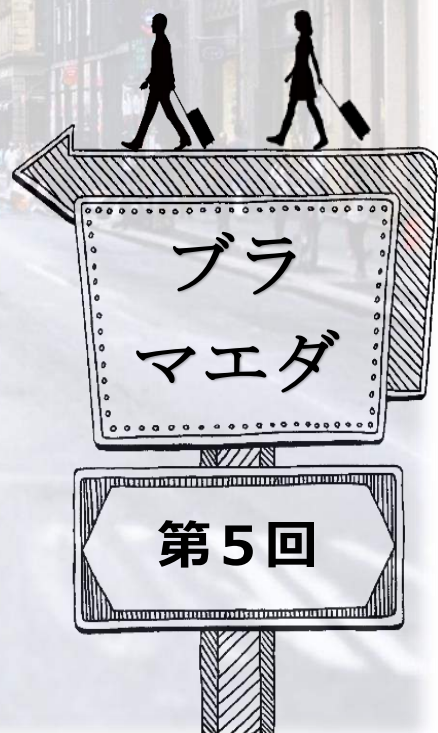




## 理事長マエダが、ブラブラするコーナーです



### 「かなびの丘」をブラブラ



今回は、法人の監事でもある「NPO法人かなびの丘」白土隆司さんをブラブラと訪ねました。

マエダ 「いつもありがとうございます。まずは、かなびの丘のご紹介をお願いします」

白土さん「金剛コーナーの保護者会が入所者の金銭管理を実施していましたが、親亡き後を見据え、NPO法人化し、後見業務を実施することになりました」

マエダ 「子どもの利用者さんは、親御さんが後見人になっているケースが多いのですが、次を誰に託していくのが、大きな課題になっています。親御さんの想いが十分に引き継がれないケースもあるのかな？」と感じています」

白土さん「そういつたミスマッチを防ぐためにも、親御さんが元気なうちに、次を誰に託していくかを、しっかりと話し合われておいた方がよいと思います」

マエダ 「腰が重たくなりがちな話だと思いますが、他に何かアドバイスがあれば」

白土さん「信頼できる親族や、私どものような団体等と、共同後見を進めておくことや、公正証書で親の想いを正式に残しておくことも有効かと思えます。タイミングはそれぞれの考えがあると思いますが、とにかく検討だけは早めにやっておくことが大切だと思います」

マエダ 「恒例なのですが、最後ににわの里スタッフにメールをお願いします」

白土さん「設立当初から、これまでの経緯を近くで拝見してきましたので、相当苦労されて、よくここまで乗り越えてこられたな、と感じております。現在は、大阪をリードする立派な法人になられたと思います。自分たちの法人はすごいところだと、誇りをもって、今後も進んでいってほしいと思います」

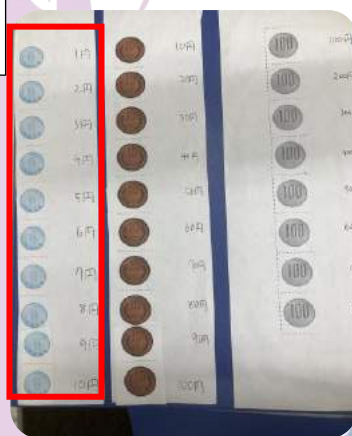
今回も、超々コンパクトにまとめさせていただきました。白土さんありがとうございました。

# アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

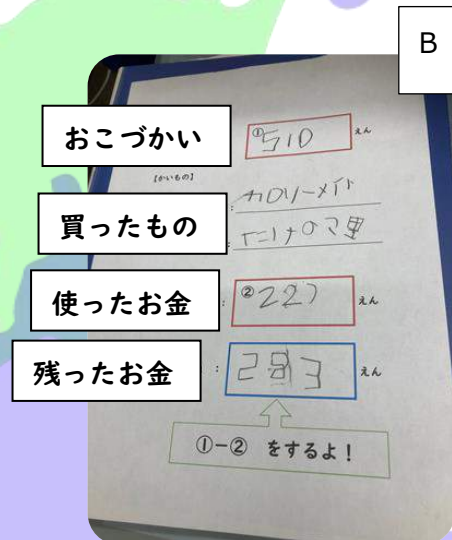
## 『 支払いの練習 』

A



小銭を上置き、何円あるか確認する

B



### 【ツールの説明】

A-小銭をいくら所持しているか確認する。

B-最初におこずかいがいくらあり、買い物をして残金がいくらになったのか自分で計算する。

### 【ツールのメリット】

- 所持金と残金がいくらか金銭管理ができる。
- 何の買い物にいくら使ったか金銭感覚を養う機会になる。

( 児童支援係 高木 清輝 )

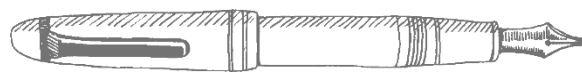
atelier naniwa



# Case

なにわの里 支援の実践紹介

# book



洗濯物を正しく出せるように支援する

入所 GH 支援 1 係 吉岡明莉



## 【はじめに】

入所施設では利用者の方に様々な支援を行っています。得意なことを伸ばしたり、苦手なことをできるように工夫したりしています。今回は、生活面の衣服について行った支援をご紹介します。

## 【Aさんの紹介】

Aさんは、なにわの里を利用している28歳女性、自閉症の方です。好きなことはラジカセで音楽を聞くことやタブレットで動画をみることです。カードを使用し、コミュニケーションをとることが得意な方です。

## 【今回の支援を行った経緯】

入所施設では起床時と入浴時に着替えをし、着ていた服を洗濯します。Aさんは、毎日、たくさんの洗濯物を持ってくるがありました。特に靴下、シャツ、ブラをたくさん洗濯に出していました。

洗濯に出す服の区別がむずかしいのか、着用していた衣類とは別にタンスに入っている衣類も洗濯に出していました。そのため、洗濯物を正しく出せることを目標に支援を行いました。

## 【支援内容】

初めに、なぜたくさんの洗濯物を持ってくるのか仮説を立てました。たくさんの洗濯物を持ってきた際、スタッフは「タンスに入れておいてね」と返事をし、持って帰ってもらう対応をしていました。その時、決まって泣きそうな顔になることや、腕などを噛む、再度洗濯物を持ってくるという行動がありました。以上のような行動から以下の仮説を立てました。

〈仮説〉

- ①何を洗濯に出すのかわからない。
- ②自分でパジャマの用意をしているため、何を準備するのか、何を带去くのかかわからない。
- ③特に下着類を多く出しているため、下着類を着用するのが苦手、または不必要なものと考えている。
- ④衣類をAさんの見えるところから無くしたい。

## 〈第一段階〉

①、②の仮説から支援を行いました。Aさんは言葉での説明よりも見て物事を理解することが得意なため、入浴時に持って行く籠にパジャマの写真、下着の写真を張り付け、何を入れるのか明確にしました。スタッフも一緒に入浴準備を行いました。

【入浴準備の籠】



【タンス内の衣類整理】



また、服をタンスに自分で片付けることができるため、タンス内を整理し、仕切りを付けることで簡単に一枚ずつ服を取ることができるようにしました。

準備物を確認することやタンス内を整理したことで、新しい上着やズボンを洗濯に出すことは減りました。しかし、下着類は変わらず、何枚も出すことができました。

## 〈第二段階〉

第一段階の結果をもとに下着類のみ行動が変わらないため、主に下着に関して焦点をあて、③、④の仮説の支援を行いました。まず、下着の保管場所をAさんが普段、あまり目の付かない場所へ変更しました。その結果、下着をたくさん出すことは減少しました。しかし、日によっては下着をたくさん持ってくるがありました。

また、たくさん下着を持ってきた際の行動（腕を噛むことや泣くこと）や、普段は自ら下着をつけないことに関して、自宅ではどういった対応をしていたのか家族に聞き取りを行いました。家族からの情報で「靴下やブラを着けるのは好きではなく、外出をする際に靴下とブラを着用するようにしていた」と話がありました。

Aさんの様子や家族からの情報を基に次の支援を考えました。

Aさんにとっては靴下とブラを着けることが苦手なため、本人の負担が少ないよう必要な時のみ着けられるように支援を行いました。また、靴下とブラは保管場所を自室とは別の場所に変更しました。起床後、Aさんが着替える際にコミュニケーションカードを用いて、靴下とブラをスタッフから受け取るようにしました。

最初はタンスに直そうとしていたため、スタッフが「着けてね」と声をかけ、見守る対応を行いました。対応を続けることで起床後から入浴まで着用することができています。現在は日中活動（外出がある活動）がある日のみ着用できるように習慣づけることができました。下着類だけでなく、洗濯物をたくさん出すこともなくなり、身に着けていた衣類だけ洗濯に出すことができています。

【コミュニケーションカード】



## 【まとめ】

私は洗濯物に何を出していいのかわからないため、このような行動があるのだと思っていました。様々な仮説をたて、段階を踏んで支援を行い、自分が予想していた結果とは違う支援を行うことができました。また、本人の慣れ親しんだ習慣や苦手なことに考慮し、身だしなみにも気を付けながら、気持ちよく過ごせる支援を行うことが大切だと気づくことができました。

# ジムインこいけのなんでも日記

## 迷ってもいい、のメッセージ

学校ネタばかりになってしまおうのですが（仕事せえよ、という感じですね）、少しでも体を慣らしていこうと論文をちよつとずつ読んでいます。「自己決定」「意思決定支援」「利用者さんの尊厳を守る」…。様々なテーマがあり、自分が深めていきたいことでもあります。でも、読んでいるとどこか胸が苦しくなるような時があります。

現場にいた頃、利用者さんの想いを大切にしたいと思ってやっていたつもりですし、現場に立たなくなったら今も同じように思っています。でも、どこまでできていたのだろうか、どこまでできているだろうか、と悩みます。こんなふう実践できたらいけれど、そうなれるんだらうか、自分を追い込んでしまったらまたしんどくなるんじゃないか、そんな気持ちも出てきます。

でも、きつと自分にもできていたこと・できていることはあるはずで、少しずつそれを積み上げていって理論と呼ばれるものに近づいていければいいんじゃないか、最近は少しずつそんなふうにも思えるようになってきました。

「こうあらねばならない」「こうあるべき」という強いメッセージだけでは、そこに付いていけない人もいるのではないか、現実に自分が付いていけない、そんな思いがあります。悩んでもいい、立ち止まってもいい、ゆっくりでもいい、そんなメッセージを現場にゆっくりと広げていきたい、と考えています。「こんなふうには自分は悩んだよ」「それで大丈夫だし、そこから大切なものが見えたこともあったよ」と伝えられるような、そんな佇まいを出せたらいいな、と思っています。

## なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2022年4月1日～6月30日

(敬称略・順不同)

### (法人の部)

あとりえらくだ 工和工業株式会社 株式会社竹弘鉄建 株式会社加美塗装工業所 岩崎商店  
松井鐵工株式会社 特定非営利活動法人けいき イワタニ近畿株式会社

### (個人の部)

光田 一二三 馬場 幸枝 西村 透 油利 悦彰 山下 孝子 車谷 二三夫 小島 純子 森 克雄  
坂本 信晴 延田 京子 田中 賢一 石井 雅憲 首藤 浩二 杉本 武志 高岸 恭子 佐々木 久子  
井田 博 井形 正信 松尾 保隆 神田 佳子 保田 信一 俵積田 和気子 川島 伸也 佐藤 太志  
前川 阿紀子 町野 隆 松田 紀弘 松田 ちか子 村松 克己 川島 白鶴 鈴木 曠二郎 渡邊 和恵  
野村 秀徳 中田 美津子 小畑 貴央 多田 操 藤原 昌 合田 由江 井上 愛子 白根 英樹  
千原 昭二 久保 信代 片岡 泰彦 合田 裕章 坪田 信道 湯淺 珠樹 四方 世津子 戸田 和歌  
宮村 昭弘

# STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

— 上田さんが社会福祉の仕事をしよと思ったきっかけのようなものがあれば、教えてください。

上田 充雄

(入所・グループ  
ホーム支援2係)

大学のボランティアクラブに入ったことがきっかけと言えばきっかけですが、福祉をやろう!とボランティア

クラブに入ったわけでもなかったんです。なんか雰囲気いいな、先輩も優しいやなと思ったのが入部の理

由でした。身体障害のあるお子さんの施設や、児童養護施設でボランティアを経験し、1回生の5月くらいに初めて知的障害のある方と接する機会がありました。恵我之荘の駅で集合、古市駅に行って、そこから歩いて石川の河川敷公園に行きました。バーベキューをしたのですが、ただただカルチャーショックでしたね。関わっていて楽しいというより圧倒されるような感じで、この先やっていけるかな…という気持ちでした。その時は先輩と一緒にだったのでまだ安心感があったのですが、その次の市民祭りでのボランティアでは先輩もいなくて、「早く終わってほしい」と時計ばかり見ていたことを覚えています。噛み合わないというか、付き添っている方の気持ちや行動の意味が読み取ることができず、しんどい時間でした。

夏休みに入って、兵庫県の山奥に2泊3日のキャンプに行くことになりました。今ライフサポートなにわで暮らすKさんと一緒に過ごしたのですが、このとき初めて「楽しい」という気持ちをもちました。こちらを見ていないようでちゃんと見てくれているんだ、と感じたし、意思疎通がとれることもあって、ここから関わりが楽しくなっていったように思います。

その後も、土日にライフサポートなにわ(当時なにわ学園)の利用者さんと一緒に外出するボランティアをしていました。活動を続ける中で、この方々は普段はどんな生活をしているのだろうか?という思いが出てきて、アルバイトをするようになりました。それがなにわの里での仕事につながっていった…という感じですね。

— 上田さんが利用者さんと関わる上で、大切にされていることはなんですか。

ボランティアの頃に「利用者さんに情をもって関わる」ということを教えて頂きました。一人の人として、大切に关わる、これは今も基本だと思っています。

ただ、現場で働くようになって、それだけでは頭打ちになった自分がありました。同じことの繰り返しになっているような、この後どう利用者さんたちを導いていけばいいのだろう、と悩むことがたくさんありました。そんなときに、利用者さんのご家族から専門性の高い研修を教えて頂いて、多くの研修に参加するようになりました。新幹線に乗って横浜まで何度も足を運んで、専門家の方から学ぶ機会を作りました。

どちらも大切なのだと思います。「専門性」と「利用者さん一人ひとりを、人として大切にする」、これらは両輪でどちらが欠けてもいけないのだと思います。

そして、できる限りで利用者さんやご家族に寄り添うこと。できないことであれば、きちんとできないこととその理由を伝え、できることであれば、できる限りでそれをやる。それが大切だと思います。

第107号

2022年8月2日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西1-3-43HOPEハウス202

E-mail [naniwa@naniwanosato.jp](mailto:naniwa@naniwanosato.jp)

HP <http://naniwanosato.jp>

Facebookでチェック 

右のQRコードから  
かんたんアクセス!

